

## 2015年度の「国際交流基金賞」受賞者を決定

～「浙江工商大学東亜研究院院長/教授 王 勇氏」、「作曲家 富田 勲氏」、  
「シビウ国際演劇祭（ルーマニア）」～

世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する、日本で唯一の専門機関である国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、1973年以来毎年、学術、芸術などのさまざまな文化活動を通じて、日本と海外の相互理解促進に長年にわたり顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」を授与しています。このたび、第43回目の授賞となる2015年度の受賞者が決定しましたのでお知らせします。

### 〈2015年度受賞者・団体〉

- ・ 浙江工商大学東亜研究院院長/教授 王 勇氏（中国）
- ・ 作曲家 富田 勲氏（日本）
- ・ シビウ国際演劇祭（ルーマニア）

### 〈国際交流基金賞について〉

国際交流基金では、設立翌年の1973年より毎年、学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に長年にわたり特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人または団体に国際交流基金賞を贈呈しています。昨年の第42回国際交流基金賞の受賞者は、落語家 柳家さん喬氏、オーストラリア国立大学名誉教授 ピーター・ドライスデール氏、モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科でした。

### 〈国際交流基金について〉（URL: <http://www.jpf.go.jp/j/index.html>）

国際交流基金は世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。国内に本部（東京・新宿）と京都支部、2つの付属機関（日本語国際センターおよび関西国際センター）、海外21カ国に22の海外拠点を持ち、文化芸術交流、海外における日本語教育および日本研究・知的交流の3つを主要活動分野として、世界の人々と日本人の間でお互いの理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

#### 【本件に関するお問い合わせ】

国際交流基金 コミュニケーションセンター 横田、下山  
TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 e-mail: [kikinsho@jpf.go.jp](mailto:kikinsho@jpf.go.jp)

#### 【本件に関する報道関係者お問い合わせ】

国際交流基金賞 広報担当 日本パブリックリレーションズ研究所 横田、志村  
TEL:03-5368-0911 FAX: 03-5269-2390 e-mail: [japanfoundation@japan-pri.jp](mailto:japanfoundation@japan-pri.jp)

<2015 年度 国際交流基金賞受賞者・団体について>

◆王 勇（浙江工商大学東亜研究院院長/教授）【中国】

Wang Yong (Zhejiang Gongshang University (Institute of East Asian Studies) Director/Professor)  
[China]



【授賞理由】

王勇氏は、1980 年国際交流基金が中国における日本語教師養成のために設置した「大平学校」（「北京日本学研究中心」の前身）の第4期生である。王勇氏はそこで日本と日本語と出会ったことを出発点に、中国の日本研究と日中間の文化交流の発展に半生を捧げてきた。

王勇氏はこれまで、中国内外で 44 冊の著書・編著や多くの学術論文を発表し、中国日本史学会副会長や中華日本学会副会長をはじめとする要職を歴任した。中国

における日中文化交流史研究を代表する泰斗であり、代表的著作のいくつかは日本語でも出版され、好評を博している。

王勇氏の研究の視点はユニークである。現在、中国では「一帯一路」構想のもとで陸と海のシルクロードを提唱しているが、王勇氏はこうした構想の提起よりかなり以前から日中文化交流史をシルクロードの中に位置付けている。古代から続く日本と中国の交流の歴史を、中国から日本への一方通行的なものではなく、絹が日本から中国に輸出されていたことなど、日中間の双方向の交流としてとらえているところに斬新さがある。

王勇氏は、日中間の文化交流はシルクよりも書物を通じた知的交流が特徴的であったことから、これを「シルクロード」になぞらえて「ブックロード」と名付けている。「ブックロード」は奈良・平安期に遣唐使などを通じて開花し、その後江戸期にいたるまで、中国で逸失した本が日本から再輸入されるなど双方向の交流として続いていたという。ユニークという点では、聖徳太子の虚像と実像を、当時の東アジア世界の中でより大きなスケールで描き出した聖徳太子論も注目に値する。

今日では王勇氏の学術活動は世界に広がっているが、日中間の知られざる文化・学術交流史に光をあて、国際相互理解の増進に果たした役割は特筆すべきである。今回の王勇氏の受賞を契機に、中国の日本研究と日中間の文化交流が今後益々盛んになることを期待し、国際交流基金賞を授与する。

【略歴】

1956 年4月 22 日、浙江省平湖県生まれ(59 歳)。1982 年杭州大学外国語学部日本語科卒業、1991 年同校教授に特別昇進。1983～1984 年、「大平学校」(第4期)在籍。1987 年7月北京外国語学院(北京日本学研究中心)にて修士号取得、1996 年9月に論文「聖徳太子と中国文化」にて総合研究大学院大学(日本)にて論文博士号取得。現職は浙江工商大学東アジア研究院院長、復旦大学日本研究中心特別招聘教授、浙江省哲学社会科学重点研究基地首席教授。

【写真】

2014 年四川省成都市で遣唐使の筆談について講演する王勇氏

◆富田 勲（作曲家）【日本】  
Isao Tomita [Japan]



【授賞理由】

富田勲氏は「新日本紀行」などのテレビ番組や、「ジャングル大帝」をはじめとするTVアニメのテーマ音楽など、さまざまな放送・商業音楽を作曲してきた。

音楽家としての原点が「音の響き」の追求であったという富田氏は 1971 年、当時高価だったシンセサイザーを私費で輸入し、クラシックの名曲をシンセサイザーで演奏したレコードを次々と発表。これらはアメリカの有力チャート誌のクラシック部門で第1位を獲得するなど全世界でヒットし、「世界の TOMITA」の評価を確立した。

音色づくりはもちろん、オーケストラの各パートの演奏と録音も富田氏自身が一人でこなす手法は、現在の主流となるパーソナルスタジオでの音楽制作の先駆けとなり、国内外のアーティストや音楽家たちにジャンルを超えて多大な影響を与えた。

1984 年に8万人の観客を動員して、オーストリアのドナウ川で開催した、「サウンドクラウド」と呼ばれる大規模なパフォーマンスは、レコード録音にとどまらない富田氏のスペクタクルな音響創造の世界を野外で実現した画期的なイベントであり、自由の女神 100 年祭の機会にハドソン川でも開催されるなど、世界中の聴衆を熱狂させた。富田氏はまさに音色の探究者であり、音響を立体化させる熱情の人なのである。

1998 年には日本の伝統楽器、オーケストラ、シンセサイザーを融合させた「源氏物語幻想交響絵巻」を作曲、自ら指揮を執って東京のほか、ロサンゼルス、ロンドンで上演した。

近年は宮沢賢治の世界を描いた「イーハトーヴ交響曲」において、全世界の若者たちに絶大な人気を誇るボーカロイド（バーチャル・アイドル）の初音ミクをソリストに起用して話題を集め、今年5月には中国政府からの要請で「イーハトーヴ交響曲」北京公演を大成功させるなど、83 歳を迎えてなお、日本文化紹介と国際相互理解の増進に大いに貢献し続けている。この功績を称え、今後益々の活躍を期待し、国際交流基金賞を授与する。

【略歴】

1932 年4月 22 日東京生まれ（83 歳）。慶応義塾大学文学部卒業。  
大学在学中より作曲活動をはじめ。「月の光ードビュッシーによるメルヘンの世界」（1974）、「バーミューダ・トライアングル」（1978）、「大峡谷」（1982）で、3度にわたりグラミー賞にノミネートされるなど世界を舞台に活躍。幾度となく日本アカデミー賞優秀音楽賞に輝いたほか、2003 年勲四等旭日小綬章受章、2011 年朝日賞、2013 年宮澤賢治賞など受賞多数。

【写真】

富田勲氏近影

◆シビウ国際演劇祭【ルーマニア】  
Sibiu International Theatre Festival [Romania]



【授賞理由】

ルーマニアの古都シビウは、屋根裏の空気窓が目のように見える「シビウの目」に代表される美しい街並みと、18世紀末には既に劇場が建設された劇場都市としても知られている。2012年には岐阜県高山市と友好都市協定を結ぶなど日本との関係も深い。

シビウ国際演劇祭は1993年に行われたシビウ学生演劇祭を起源として1994年に発足した。2004年にシビウ市が2007年の欧州文化首都に認定され、国際観光都市へと変貌していくにつれて演劇祭の規模も拡大し、現

在では6月の10日間の会期中、70を越える国から約430団体が参加する。ヨーロッパの国際演劇祭としてはアヴィニヨン、エディンバラの次に数えられるほどに成長している。演劇祭の芸術監督は俳優のコンスタンチン・キリアック氏で、演劇祭の中心劇場ラドゥ・スタンカ劇場の芸術監督も兼ねる。昨年末にルーマニア大統領に就任したクラウス・ヨハニス氏は14年間シビウ市長をつとめ、大統領就任は演劇祭を成功に導いた功績が大きい。

1995年の第2回演劇祭に劇団1980を招へいして以来、野田秀樹、野村萬斎、東京演劇集団風、劇団山の手事情社、青年団、MODE、金魚、DAZZLEなど日本から劇団やダンスカンパニーを多数招へいし、その数は2015年までに73件にも上る。故中村勘三郎が平成中村座「夏祭浪花鑑」を上演するなど、古典芸能から現代演劇・ダンスまで日本の幅広い舞台芸術作品を欧州の人々に紹介してきた。

本年は、ラドゥ・スタンカ劇場で安部公房の戯曲「幽霊はここにいる」をコンスタンチン・キリアック主演で串田和美が演出するなど、日本文化の国際化に長年にわたり多大な貢献をしている。

2007年にEUジャパンフェスト日本委員会、高山市などにより開始された日本人ボランティアの派遣(2015年までに127名が参加)が2014年からシビウ国際演劇祭ボランティア参加プロジェクトとして正式に定着しており、国際友好親善の促進にも貢献している。この功績を称え、今後益々の活躍を期待し、国際交流基金賞を授与する。

【写真】

シビウ国際演劇祭の一場面

【本件に関するお問い合わせ】

国際交流基金 コミュニケーションセンター 横田、下山  
TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 e-mail: [kikinsho@jpf.go.jp](mailto:kikinsho@jpf.go.jp)

【本件に関する報道関係者お問い合わせ】

国際交流基金賞 広報担当 日本パブリックリレーションズ研究所 横田、志村  
TEL:03-5368-0911 FAX:03-5269-2390 e-mail: [japanfoundation@japan-pri.jp](mailto:japanfoundation@japan-pri.jp)